

◇新修『清史』の編纂作業を終えて

部 —人物伝記部分—

中国・国家清史編纂委員会

『清史』人物伝記部門編集主任 潘 振平氏

◇ヌルカン使司の所在地に関する歴史的考察

中国・国家清史編纂委員会副主任

ト 鍵氏

◇清代における蒙蔵活仏の転生をめぐって

—「金瓶掣籤」制度の制定過程を中心に—

中国人民大学歴史学院教授

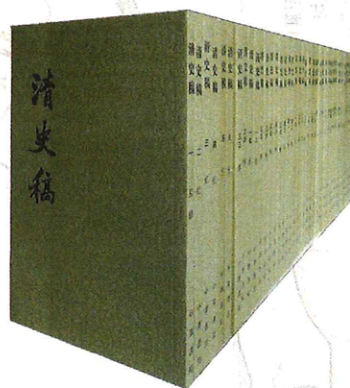
張 永江氏

◇清代東北農業生産の長期動向

—盛京内務府糧莊档案を手掛かりに—

天理大学文学部教授

谷井 陽子氏



国際シンポジウム
2019 清史研究の現在

来聴歓迎！

日時：7月7日（日）

13：00～17：30

場所：研究棟第1会議室

中国では、紀伝体通史の形式で明までの二十四史がつけられてきました。清朝については、民国期に『清史稿』としてまとめられましたが、時代の影響もあって、「稿」として今日に至っています。2002年、中国の人文科学研究プロジェクトとして、国家清史編纂委員会が立ち上げられました。2012年度、天理大学中国文化研究会では、当時清史編纂委員会常務副主任を務められたト鍵氏をお招きし、その編纂の苦労や問題点などについてご講演をいただきました。今回は、新修『清史』の出版を目前に控え、長らく編纂に携わって来られた研究者にお越し頂き、清史研究のありかたや、最近の研究をご披露いただきます。